

万一の災害時にも、 社員の安全と事業の継続性確保のために。



日本列島の周辺には数多くのプレート境界及び活断層があり、ひとたび地震が起きると想像以上の被害が及ぶこともあります。災害発生時にも従業員の生命を守りお客様への製品供給を続けていくため、防災品質の向上も重要な経営課題です。そのため、これまで以上に詳細な地震対策計画策定に着手しました。



取締役 生産本部本部長 飯村 英男

■ 地震対策工程表策定の経緯

これまでヤスハラケミカルでは、各生産拠点毎に、それぞれの地域特性にあわせた防災対策を行っていました。2年前からは想定される東南海地震に対して、新居浜工場を手始めとした各工場建物の簡易耐震診断にも着手するとともに、より詳細な防災計画を策定する準備を整えていました。

ちょうどその頃東日本大震災が発生し、早急に詳細な地

震リスクへの対応が要求されることとなり、品質環境保安室と連携して新たな地震対策のプラン作成をスタートさせたのです。

計画策定にあたっては、生産本部長と各工場長を対象とする会議を立ち上げて定期的に会合を開き、情報を共有化しています。

■ 地震対策工程表の概要

2011年4月に、「社員の安全・安心確保」と「業務の早期復旧と継続」を柱とする新たな地震対策基本方針を立案。これに基づき、各生産拠点における災害規模の想定と許容リスクの設定を行うと同時に、2013年までの地震対策の工程表を策定しました。計画では、今年度は建物の簡易診断を順次行い、来年耐震性の詳細診断を実施、その後各工場毎に地震対策の計画を策定する予定です。

またソフト面での対策として、各工場毎に緊急地震速報を確実に入手するための設備を整えるとともに、衛星電話等を使った緊急時の連絡手段の検討を進めています。

また非常時には電話が通じにくくなるため、従業員や家族の安否確認については、メールやインターネットを使った通信手段の確保をめざしています。

福山工場に新型化学消防車導入。

化学製品を製造している福山工場では、万一災害や事故が発生すると外部環境に対しても重大な影響を与えることが想定されるため、特に慎重な安全対策を施すようにしています。

福山工場における防災活動の強化の一環として、2010年8月に最新鋭の化学消防車を導入しました。新型化学消防車導入のメリットは、火災発生時に効率的かつ効果的な消防活動ができる体制を整えることができたということです。

新型化学消防車は、水と泡消火薬剤の混合比率を3～6%で自動コントロールしながら、一分間に2,100ℓの泡放水を120分間連続で放水できる能力を備えています。

また、以前の化学消防車では消火活動に5名必要でしたが、新型化学消防車にはホース延伸が容易なホースカーや低反動ノズル、ハンズフリーの無線連絡システムなどの省力化に資する装置や機械

器具の採用と、社内自衛消防隊員の習熟訓練の成果により、3名での操作が可能になりました。こうして万一の火災発生時にも、少ない人数で初期消火を行いながら、余剰人員を、別の緊急措置に振り向けることも可能になりました。

今後も化学消防車というハードの整備はもちろん、それを扱う社内自衛消防隊員の自主訓練などを継続することで、工場全体の防災意識の向上とリスク軽減に取り組んで参ります。



低反動ノズルやハンズフリー無線などの採用により、3名での消火活動が可能です。

